大会。そして伊達佳内子が幼年の部全国優勝。丹羽峰子の少壮吟士全国決戦一回入賞、一般二部全国三位入賞。堤（奥村）由美が青年部全国優勝、少壮吟士拝命。六郷岳精会女子武道館合吟コンクール全国三位入賞等々。

また三代目会長遠田精心（八十八才）二代目会長遠田精敬（九十五才）が二年の間に続けて逝去し、時代の移り変わりに先行きの不安を禁じ得ませんでした。しかしこれからは今までの教えをしっかり守り、会員の皆さんと力を合わせて前進してゆかなければならぬと固く思う次第です。

人間形成に不可欠な教えを説く詩吟をこれからも大切に伝えて行きたいと思います。詩吟とともに歩める幸せをかみしめ、命ある限り頑張っていく所存です。

千代田岳精会、成長続く
平成二十八年、三十周年大会へ

総本部常任顧問　磯田精信
千代田岳精会会長　鈴木精成

「吟魂燃ゆ」（平成六年発刊）には、『千代田岳精会』の〝千〟の字もない。誕生間もなかったせいだろうが、それから三十年近く当会は順調に成長を続け、平成二十八年には三十周年を迎える。

千代田20周年　吟道大会
岩崎精慶

初代会長の飯田精鷹先生を中心にスタートした揺籃期から、家元・横山岳精先生、宗家・横山精真先生のご指導の下、ここまで辿ってきた道のりを振り返りながら、当会の歩みをご報告する。

明治生命の同好会がスタート

東京・千代田区丸の内に本社を置く『明治生命』（のち合併して、明治安田生命）に、詩吟の同好会ができたのは昭和五十九年。終戦後すぐ岳精家元と知り合い、岳精流統に参加していた飯田精鷹先生（平成二十七年現在の雅号＝以下同）の呼びかけで、詩吟同好会として活動を開始した。このうち、飯田先生、岩崎精慶、林精吾、吉川龍鐘、大熊龍精、鈴木精成、磯田精信の創設時六人のサムライ達（吟士）は、今も吟を続けている。

練習日は週一回、みな現役社員だったので、昼休みと夕方の二回、明治生命本社七階の講堂に集まった。そこが行事で使えないときには、地下駐車場を使ったこともある。

幸い、磯田が会社の営繕を担当する責任者だったので、練習場所にはさほど苦労しなかった記憶がある。また、冷暖房も自由に使った。社員の集まりであったにせよ、わがままを許してくれた、明治生命の当時の幹部に感謝したい。また同好会として、年間五万円の補助もいただいた。この補助は、のちに岳精会となっても暫く続いた。

会社の経営にゆとりがある古き良き時代だったにせよ、ありがたいことだった。その後平成十六年、日本最古の生命保険会社である明治生命と安田生命が合併し、

千代田支部　発足の会

今の『明治安田生命』となったが、現在まで新宿にある旧安田生命本社の部屋を無料で貸していただいている。これまで、練習場探しの苦労をしないで済んだことは、会員増加にも大変プラスになったと思う。

千代田支部誕生へ

同好会とはいえ、岳精家元（当時は宗家）のもと、きちんと詩吟を習っていた飯田先生の存在は大きく、当時私たちは「飯田塾」と呼んでいた。塾発足時のメンバーが、その後、吟友を誘い、会員が二十二名になった発足一周年の昭和六十一年六月二十一日、労働会館で、第一回の温習会を開いた。

練習後のイッパイの席で、教場の名称をどうするかについて侃々諤々、「（本社がある）丸の内がいい」とか、「いや大きく千代田（江戸城が別名千代田城なので）としよう」とか、言い合ったのも懐かしい思い出だ。

そして昭和六十二年二月六日、晴れて岳精流日本吟院に加入、京浜合同教場の一教場として「千代田教場」を名乗り、温習会に初参加する。この時だったか、受付で「千代田って聞いたことがない、どこだ」と言われ、愕然としたことは忘れられない。

発奮した面々は、支部昇格の基準である会員五十名以上を目指し、競って会員獲得に走ったものである。

明治生命の同好会を軸にした職域教場から、吟友の幅と数も広がり会員五十名を突破、晴れて昇格を申請、平成六年三月「千代田支部」となった。八月には、岳精家元（当時宗家）の御臨席を仰ぎ、支部昇格大会を開くに至った。

千代田岳精会　発会記念大会

千代田20周年　祝賀会

このときの支部には、千代田教場（のちに、丸の内第一＝井手教場長＝故人、丸の内第二＝岩崎教場長＝に分離）、東陽町（磯田教場長）の三教場があった。

千代田岳精会発足

平成六年（一九九四年）「千代田支部発足大会」で挨拶された岳精家元は「二十一世紀には会昇格を目指せ」と檄を飛ばされた。平成八年、会昇格推進構想を作成、清水教場など新設。のちに述べるが、あの手この手の吟友獲得作戦を展開、平成九年（一九九八年）には会員数一〇六名となり、「千代田岳精会」への昇格を申請。平成九年九月、会員数は一三〇名となり、晴れて会への昇格が認許された。翌十年十月十一日「千代田岳精会」発足記念大会が、明治生命別館記念ホールで行われた。

支部発足から四年、家元の期待より、二年早いという快挙だった。

教場も順調に増えた。東陽町に続いて、平成八年に清水、九年に神田、ハザマ各教場が発足。その後、丸の内女子（現在は丸の内清流）、神田から枝分かれして新宿教場がスタートし、ほぼ現在の輪郭が整った。

そして平成十八年十月二十九日、創立二十周年記念大会が明治安田生命ホールで開催された。会員二〇〇名近くに膨らんでいた。

いくつかの水源から流れ込む吟友

千代田岳精会の組織は、いくつかの水源から流れ出る水が集まって大河になるがごとく、よこ糸とたて糸が紡がれたような重層的な形となっている。

明治生命の同好会から始まっているので、まずは当然のことながら、ここでの同僚、部下が集うのは自然であり、現在も主要メンバーは明治生命出身者。これに、